

9章1節10 英語「英語を話すことの力を高めるための実践詳細」

林秀樹

keyword：コミュニケーション、質問と答え、既習内容と発展課題

1 どんな成果や課題があったか？

①会話の流れやつなげる要素に注目することで、会話をつなげるための方法を身につけることができた。

②ICE評価を取り入れることで、英語の量や正確さ、コミュニケーションの力、思考力など様々な面から評価できた。

2 実践の学年、科目、授業、単位数、単元、時期、場面等は？

◎どの学年でもどの単元でも可能（いくつかの疑問文とその答え方が既習なら）

3 どんな動機や背景、課題があったか？

①活動が単なるパターン練習

英語の習得には繰り返しての練習がとても大事になってきますが、英語を話す活動が、習った表現のパターン練習になってしまっている生徒が多かったので、英語であっても習った表現を自分のこととして伝え、相手のことを知ることに重点を置き、会話を楽しむということも大切にしてほしくて、会話の要素や会話をつなげるための工夫などを考える活動や課題を取り入れました。

②質＜量？

英語の評価では、「どれだけの英語を読めた、書けた、話せた」という量が大事なのか、それとも「どれだけ正確に表現できたか」という質が大事なのか、質か量のどちらが大事なのかということが話題になることがあります。当然、どちらも大事なのですが、それより英語の評価であっても、英語の技能の力だけではない、もっと幅広く生徒の力を見取る評価方法も取り入れていくことが大切だと感じていました。

4 ICE ルーブリックへの位置づけ

まず英語の学習全般に関わるICEルーブリックとして「英語運用能力（教科・科目に特有の知識・技能）」、「コミュニケーション（教科・科目に特有の見方・考え方）」と「多様性の認識と活用（汎用的な能力）」という3つの観点を設定しています。このルーブリックを元にして単元ごとのルーブリックを作っていくことで、どんな活動や単元であっても英語科でつけたい資質を育てていくことができます。

英語科ループリック

	Ideas	Connections	Extensions
英語運用能力（教科・科目に特有の知識・技能）	英語の法則、単語、文法を理解し、正確に使えるように習得している。	英語の情報から状況や文脈を解釈し、状況や文脈に合わせて使えるまでに習熟している。	英語の情報から、状況や人間関係を予測し、目的に合わせて英語で、課題を解決する。
コミュニケーション（教科・科目に特有の見方・考え方）	「聞く」「話す（発表）」「話す（やりとり）」、「読む」「書く」という 5 つの領域それぞれの機能を生かしたコミュニケーションをする。	「聞く」「話す（発表）」「話す（やりとり）」「読む」「書く」という 5 つの領域の複数の機能を統合しながら、コミュニケーションをする。	「聞く」「話す（発表）」「話す（やりとり）」「読む」「書く」という 5 つの領域の特性を生かし、目的に合わせて、コミュニケーションをする。
多様性の認識と活用（汎用的な能力）	コミュニケーションを通して得た情報から文化、個性、意見などの多様性を認識する。	コミュニケーションを通して得た情報から文化、個性、意見などの多様性を認識し、その多様性を生かして、疑問や課題を見つける。	コミュニケーションを通して得た多様な意見や情報から、新しい考え方や方法を創造し、自分についてメタ認知する。

個別の事例

単元ループリック



会話をどんどんつなげられるようになろう。～英語で会話を続けよう～

	Ideas	Connections	Extensions
英語運用能力（教科・科目に特有の知識・技能）	疑問文と答え方の法則、単語、文法を身につけている。	会話での情報から状況や文脈を解釈し、状況や文脈に合う疑問文と様々な応答に習熟している。	様々なトピックに合った会話ができるように、適切な情報のやりとりをしてよりよいコミュニケーションがとれる。
コミュニケーション（教科・科目に特有の見方・考え方）	「話す」という機能を生かしたコミュニケーションをする。	「聞く」「話す（やりとり）」という 2 つの機能を生かしてコミュニケーションをする。	適切なコミュニケーションをとれるように「聞く」「話す（やりとり）」の機能を生かしてコミュニケーションする。
多様性の認識と活用（汎用的な能力）	「会話」を通して得た情報から自分との共通点や違いについて認識する。	会話を通して得た情報から、相手の興味関心に応じて、会話が継続するように工夫する。	様々な相手との会話をメタ認知し、よりよいものにしていくように手立てを計画する。



活動ループリック

	Ideas	Connections	Extensions
活動	①バラバラになった会話文を、つながりの根拠を探して、適切な順序に並べ替える。 ②並べ替えた会話文を使って会話してみる。 ③会話で得た情報から相手の好みや興味があることを知り、自分との共通点や違いを見つける。	④会話のポイント レベル1：話の始め方の工夫と相づち レベル2：+1の情報を付け加えた応答 レベル3：話を展開させる工夫を理解し、会話例を作り、よりよい会話に修正する。 ⑤聞くときと話すときに大切なポイントについて考え相手の状況を考慮する。 ⑥話しているときに、困った時（会話が途切れる・英語でどういうかわからない等）の対処の仕方を考え、解決する。	⑦与えられたトピックで会話をする。 ⑧会話を記録し、よりよいコミュニケーションであるかをペアで評価する。 ⑨活動を振り返り、活動前と活動後の課題と成果をまとめ、解決方法を提案する。



発問ループリック

	Ideas	Connections	Extensions
導入展開の問い	つなぎ合わせる活動のときつなげるときの理由〔根拠〕は何だろう。	会話が続かない原因はなんだろう？	みんながよく話している話題は何？
洞察を促す問い	他のつなげ方はないだろうか？ 会話の前や後は想像できますか？	話し上手、聞き上手どちらがよい？ 話し上手になるには？ 聞き上手になるには？	会話は相手を理解することにつながるだろうか。
本質的な問い	会話をする目的はなんだろう？	相手をよりよく知る会話の条件は？	会話をすることで、相手との関係は変わるだろうか？

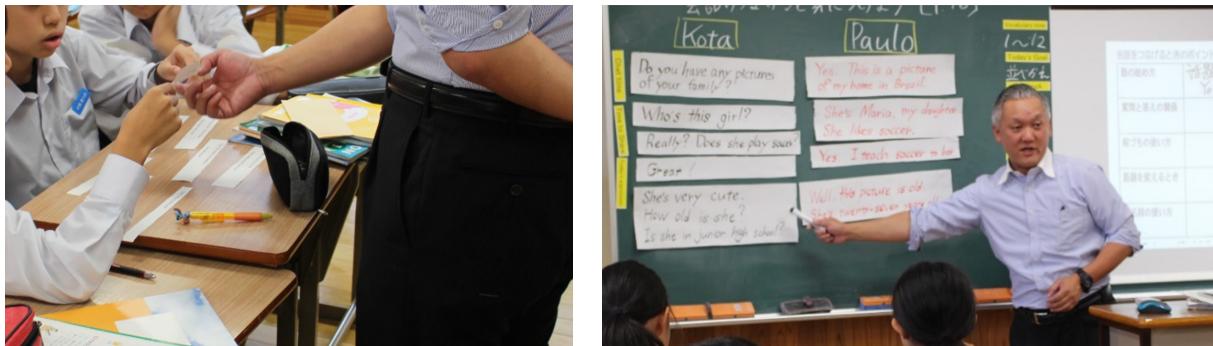
5 どのように実践したか？

活動ループリック [Idea]

	Ideas
活動	①バラバラになった会話文を、つながりの根拠を探して、適切な順序に並べ替える。 ②並べ替えた会話文を使って会話してみる。 ③会話で得た情報から相手の好みや興味があることを知り、自分との共通点や違いを見つける。

教科書などにある会話文を1文ごとや発話者ごとなどにバラバラに切り取ったものを生徒に渡し、会話が成り立つように並べ替えさせます。導入の発問で根拠を持って並べ替えられるように指導します。生徒がある程度正解例に近づいてきたところで、「洞察を促す問い合わせ」をすることで、正解例以外にも成り立つと生徒が考えるものが出てくることがあります。また並べ替えた会話の前や後の会話を考えさせることで、生徒オリジナルの発想や違った答えが生まれます。それを本当に成り立つかをみんなで共有したりすることでこの学びを全体に広げるようにします。そしてその並べ替えた会話を自分の体験や考えに入れ替えて、会話練習をし、表現の定着を図ります。

会話練習で得た情報から「自分と似ていると思った人はいたかな？」「今まで知らなかった一面が見つかった人はいますか？」など活動を振り返らせ、会話をすることで相手を知るきっかけになるにつながることを生徒に理解させていきます。



活動ルーブリック 【Connections】

	Connections
活動	<p>④会話のポイント レベル1：話の始め方の工夫と相づち、レベル2：+1の情報を付け加えた応答 レベル3：話を展開させる工夫を理解し、会話例を作り、よりよい会話に修正する。</p> <p>⑤聞くときと話すときに大切なポイントについて考え方相手の状況を考慮する。</p> <p>⑥話しているときに、困った時（会話が途切れる・英語でどういうかわからない等）の対処の仕方を考え、解決する。</p>

つなげるときの根拠を整理させ、その中で会話のポイントを見つけさせていきます。レベル1は出でやすいのですが、レベル3は出でません。そこで「会話を1分間つなげてみよう」や「10往復以上の会話のやりとりをしてみよう」など会話を継続させる活動を行わせます。すると会話を続けることができないペアが出てくるので、導入の問い合わせから「会話が続かない」原因を考えさせ、レベル3の「話を展開させる工夫」を持っていきます。生徒たちの意見や既習の表現を思い出させながら、話を展開させる工夫には、相手の家族の話に展開したり（人称を展開する）、以前はどうだったのか、これからはどうしようと思っているのかなど時間軸を展開したり（時制を展開する）など様々な方法があることを確認していきます。

そしてこれらのポイントを意識しながら、英語で会話をします。このとき最初からリアルタイムでの会話だとなかなか言葉や表現がすぐに出でこず難しい生徒が多いので、最初はつなげるときのポイントを使った会話例を作り、それを練習させていきます。この活動を繰り返し、ポイントが身についてきたら、リアルタイムでの会話に挑戦させていきます。最初はレベル1だけでも良いので、使わせ、使えるレベルを上げていきます。ある程度会話に慣れてきたら、洞察を促す問い合わせ「話し上手、聞き上手どちらがよい？」をし、会話を続けるという技能の習得だけでなく、会話での「聞く」「話す」ことの機能をどう生かしていくのかということを考えさせます。また活動の中で、生徒たちの会話で生徒が困っている姿（会話が途切れる・英語でどういうかわからない等）が出てきたときにその対処法を課題にして授業を展開していきます。

活動ルーブリック 【Extensions】

	Extensions
活動	<p>⑦与えられたトピックで会話をする。</p> <p>⑧会話を記録し、よりよいコミュニケーションであるかをペアで評価する。</p> <p>⑨活動を振り返り、活動前と活動後の課題と成果をまとめ、解決方法を提案する。</p>

ここからは生徒たちが自由に自分の力で会話をしていけるように活動を継続していきます。また生徒の興味を引けるように、トピックは導入の発問「みんながよく話している話題は何?」から出てきたトピックを使うこともあります。

そして会話練習が終わった後に、自分の会話を記録【可能ならレコーディングする】させ、確認し、ペアで会話のポイントの利用について評価させます。しかし、中には、レベル3「会話を展開する」を多用し、脈絡のない話になっているケースがあります。そういう会話を取り上げ、洞察を促す問い「会話は相手を理解することにつながるだろうか。」で、会話をすることの意義について考えさせます。そして活動と振り返りを何度も行い、課題を見つけ、改善していくように活動を継続していきます。

またこのループリックを使ったパフォーマンステストをしていくことで生徒の達成度を様々な観点で評価することができます。そしてパフォーマンステストを自分ではない先生に実施してもらうことでループリックの共通理解にもつながっていきます。



6 実践した感触はどうか?

①活動をやる→活動でどのような資質や技能を身につけるのか

「活動あって学びなし」という言葉をよく耳にします。英語はどうしてもその傾向が強いと感じます。ループリックを明確にすることで活動をどのように高めていく、その活動でどんな技能を身につけさせるかだけでなくどのような資質を身につけさせるかにシフトしていくと感じています。

②学んできたことをつなげる

知識が断片的でつながっていないと、生きた知識になりません。特に英語では文法を中心としたシラバスになっているのでそれぞれの文法は理解していても実際に使えないということがよく起こります。生徒の英語の運用能力を高めるためには学んできたことをつなげていくことがとても大切だということを改めて感じました。

③生徒の学びをいかす

生徒の活動の様子をよく観察し、生徒が学び取ったことや考えを授業にいかすことで、生徒の取り組みの様子や授業の展開が変わっていくことがよくあります。生徒が困ったとき、課題に直面したときこそ、すぐに最適解を与えてしまうのではなく、授業にいかしていくことがICEのCやEのフェーズでは一番重要だと感じています。

7 生徒の変容は

①マンネリ化→自分で工夫

練習は大事ですが、いつも同じ練習だけだと生徒も飽きてきて、やらされている感じになっていましたが、発問で揺さぶりや新たな疑問を提示することで、生徒は自分で考え、正解は常に1つではないということがわかると自分で工夫するようになってきました。

②学びのつながり

会話をつなげるポイントの学習の後、スピーチの活動をしました。スピーチの活動というと話す人は話すだけ、聞く人はただ聞くだけという活動になっていたのですが、スピーチのとき聞いたことで、質問がある人は質問をしても良いとすると多くの生徒が質問をするようになりました。これも会話をつなげるポイントの中で話の展開の方法を学んだことが生きているなと生徒の成長を感じることができました。ある学びで身につけたことを違う学びでも使っていくことが生徒の成長には大切だと感じました。

8 今後の課題は？

授業案を考えるときは英語科ループリック→単元ループリック→活動ループリック→発問ループリックと順に考えるようにしています。しかし一番難しいのは、単元ループリック→活動ループリックの流れを考えるときです。どう教えようかなと考えてしまうクセがついてしまい、活動から考えると案が浮かぶのに、不思議なもので逆から考えると活動が浮かばないことがあります。活動から思いついたときは、その活動でどんな力や資質を身につけたいのかというふうに考えていくようにしています。ICEは自分の使いやすい形で使っていくことが大切だと思います。